



会員各位

2020年4月1日

日本マネジメント学会第81回全国研究大会開催のご案内

第81回全国研究大会実行委員長 大野和巳（文京学院大学）

会員各位におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日本マネジメント学会第81回全国研究大会は、文京学院大学(本郷キャンパス)において、2020年6月5日(金)～6月7日(日)の三日間の日程で開催されます。

今回の第81回全国研究大会においては、その統一論題として『2020年代の経営革新と事業創造』を設定し、今後10年間のマネジメントの方向性を理論と実証の双方から多面的に検討していくことといたしました。改めて申し上げるまでもなく、世界経済が直面している環境変化の振れ幅はこれまでと比較にならないほど大きくなっており、IoTやAI等の技術の進展、生産年齢人口の伸びの減速、GAFに続く新興ユニコーン企業の隆盛そして中国等による世界経済秩序の揺らぎ等、それらはどれをとっても大きな構造改革を産業社会に促すものとなっています。そのような状況下で、ポストコンサルティンググループは『BCGが読む経営の論点2020』のなかで、2020年代の企業基盤進化の方向性として、①新しい競争ロジックをマスターする、②変化に柔軟に対応する組織を構築する、③ダイナミックな全社改革を実現する、④先が見えない時代に経営手法を進化させる、⑤企業の「あるべき姿」を再定義する、という5つの指針を提示しておりますが、例えば異業種企業が組んで共通のプラットフォームをつくり、そこに様々な企業を参加させるようなトヨタ自動車・ソフトバンクグループによるモネ・テクノロジーズの設立、次世代組織として注目を集めているティール組織の議論もまた、世界のメガトレンドや企業基盤進化を強く意識したものと見なすことができます。

今回の第81回全国研究大会においては、このような環境認識・現状認識に基づき、今後10年間の企業基盤強化の方向性を経営革新と事業創造の2側面を中心に掘り下げていきたいと考えております。具体的には研究者のみによる「2020年代の経営革新の分析枠組の方向性を探る」、典型的なニュービジネス領域の創業経営者による「急成長企業の戦略行動から考える2020年代の経営革新と事業創造」、そして実・学一体型のメンバーによる「事業創造と事業モデル再構築の方向性を探る」という3つの統一論題セッションの設定し、また特別講演には統一論題にあわせて、我が国を代表するバイオベンチャーの雄、(株)ユーグレナの出雲充社長が登壇いたします。なお、特筆すべきは自由論題報告者が過去最大規模の13名も出現したこと。大会実行委員会といたしましては、この盛況を大歓迎するとともに、熱い議論が交わされる環境づくりに注力する所存であります。

皆さまにおかれましては、万障お繰り合わせの上、ふるって今大会にご参加くださいますようお願い申し上げます。

<開催校案内>

文京学院大学の前身である女性向けの私塾は、創立者島田依史子が1924年に創設したものであり、本学はまもなく百周年を迎えようとしています。創設以来、女性向けの職業教育等の領域で着実に発展を遂げており、そして1964年に短期大学英語英文学科が、1991年には我が国の女子大学初の経営学部が設置され、その後の共学化を経て、現在では外国語学部・経営学部・人間学部・保険医療技術学部の4学部と大学院を擁する都市型大学を形成しています。「自立と共生」を建学の理念とする本学は、東京都文京区向丘（本郷キャンパス）と埼玉県ふじみ野市亀久保（ふじみ野キャンパス）の二か所にキャンパスを有しており、今回の全国研究大会は経営学部が所在する都心の本郷キャンパスで開催されます。

本郷キャンパスへのアクセスは地下鉄南北線が便利であり、南北線「東大前」下車、2番出口から徒歩0分で本学となります。改札口を出られたら右側にいささか長い通路を歩かれ、その先の左側のエスカレーターを上ると、そこにある2番出口に直結しているのが本学であり、雨の日でも傘をささずに改札口から教室に到達することができます。

山手線の内側にキャンパス立地していることもあって、産業界や官界とのコラボレーションにも優位性を発揮している一方、大学近隣には緑も多く、また半ば観光地化している「谷中・根津・千駄木地域」も徒歩圏内となっております。